

竹コンクリート魚礁

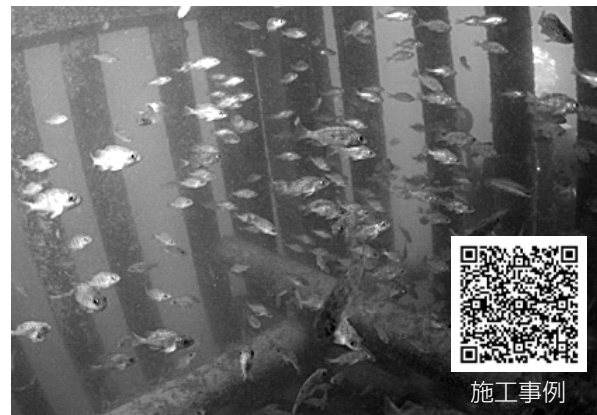
概要

オリジナル製品

山口県の竹林面積は鹿児島、大分に次いで国内第3位の広さを有し、全国の竹林面積の半分以上を九州と山口県が占めています。竹コンクリート魚礁は、近年、著しく増加し続ける竹林面積とそれともなう森林の荒廃に着目し、環境保全の立場から竹林整備により伐採された竹の有効利用を目的とした製品です。伐採された竹を有効利用することで森林荒廃の防止と近海漁場の整備の双方に配慮した魚礁です。(特許 第5190639号)

特長

有機質である竹を利用しているため、一般のコンクリート魚礁に比べ藻類等の付着が早く、集魚効果をより一層高めることが可能です。竹の内部に鉄筋を通し流動コンクリートを充填する事で竹が腐食した後もコンクリート魚礁としての機能を維持出来る構造となっております。



竹コンクリート藻場礁

概要

オリジナル製品

近年、藻場が消失している磯焼け現象が全国的に発生しており、本県各地の沿岸でも藻場が減少傾向にあります。この度、(公財)やまぐち産業振興財団・研究開発支援事業助成金の交付を受け大島商船高等専門学校と「豊かな海を守り育てる藻場造成」の共同研究開発に取組み竹コンクリート製の藻場礁を製品化しました。(意匠登録 第1555005号)

特長

- ①礁本体を従来の平面型から斜型構造に改良し泥砂の堆積を防御する。
- ②柱部分の取り外しが出来る構造であり、藻場着生柱を他の海域へ移植する事が可能である。
- ③本体内部に多くの空間を設けており、魚類の隠れ場や住み処となり魚礁効果も備えている。

